

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2370401230		
法人名	株式会社マザーズ		
事業所名	グループホーム円頓寺東館		
所在地	愛知県名古屋市西区那古野1-20-30		
自己評価作成日	令和4年11月23日	評価結果市町村受理日	令和5年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvovsOcd=2370401230-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvovsOcd=2370401230-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年12月8日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

企業理念である「人生楽しく自分らしく」をもとに住人様1人1人の想いに寄り添い、住人様とご家族様の想いを尊重した支援を心がけ、その人らしい・自分らしい暮らし方を医療と連携しながら支援していきます。

この数年間、コロナやその時々状況に戸惑いながらも今は継続することの大切さを感じています。特に学生の受け入れや実習などは形をかえやり方を変えながらどうしたら行えるか考え実践しました。今期は幼稚園、小学校、高校、大学生さんと幅広い世代の方との交流の機会を持つことができました。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

地域交流も多く、地域に根付いているホームである。この1年コロナ下において地域交流を継続するために、管理者・職員は「どうしたらできるのか」と前向きな姿勢で検討を重ね、方法や場所などを工夫して実現に繋げている。毎日商店街のラジオ体操に参加し、「ごえん市」やバザーへの出店、幼稚園児との交流や実習生の受け入れを再開している。利用者の参加する行事も増え、楽しみが戻ってきた。今年度、管理者が地域の消防団に初の女性団員として入団した。管理者の「新しい交流の機会ができ、人の繋がりが増えてきた」との言葉からも、地域密着が感じられる。

また、管理者の前向きな運営方針が職員に浸透し、「利用者主体」が貫かれている。職員の離職は少なく、利用者が穏やかに過ごす支援が継続されている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出かけた時間帯や要望を聞きながらお参りや散歩、買い物など自然な形で地域に出かけられる機会を支援しています。	理念の「人生楽しく 自分らしく」は、職員に浸透している。毎月各ユニットの目標「支援以外の会話をしよう」などを掲げ、「利用者本位」の支援を追求している。ユニット目標を、会議で振り返る機会がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアさんと曜日など調整しながら日課や地域との繋がりが継続できるように支援しています。	毎日商店街のラジオ体操に参加し、商店街の「ごえん市」やバザーに出店している。幼稚園児との交流や実習生の受入れなど、交流の機会は多い。管理者は、商店街の地域運営推進会議に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施錠をしない支援を継続しています 外出される住人様とのいろいろな関りを見ていただくことが住人様や職員を覚えていただくきっかけになっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議では身体的拘束や感染症など研修の取り組み報告、会議の目的の共有を行いました。 (状況報告・情報収集・評価)	運営推進会議は、対面で年6回開催(少人数開催も含む)している。町内会長、民生委員、地域包括支援センター、薬局、ボランティアなどの多彩なメンバーで、積極的な意見が出され、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	東館では生活保護受給者の方が多いので保護課の方との関係性が築けている 入居前・後も状況をお伝えしながら困りごとなどある際には間に入っていただくことも多いです	生活保護受給者が多く、区の担当者とは報告・相談を行い、信頼関係は構築されている。運営推進会議には、地域包括支援センター職員が出席しており、ホームの状況は良く理解されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に1度の身体的拘束委員会への参加、ユニットごと毎月の会議で身体的拘束について話し合い、目標の振り返りを行っています	身体拘束適正化委員会に2ヶ月毎に出席し、ユニット会議で振り返る機会を持ち、職員の身体拘束への意識は高い。玄関に施錠はなく、利用者の外出に見守りながらついて歩くなど、静止しない支援をしている。スピーチロックは職員同士で注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	eラーニングの受講では虐待について必須項目とし全職員対象に行い虐待防止の徹底に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用されている方も多いです、職員の方が来設された時には住人様の様子をお伝えしたり、ご本人からの要望意向の確認などを行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	現状は会社の契約担当者が行っている利用者・ご家族様を交えて説明しご理解いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	できる限りご家族様との面会を行えるよう調整しながら直接お話する機会を設けています、定期的にアンケートを行い改善点などは会議で話し合っています	制限付きで家族の面会は再開されている。ライン、メール、毎月の便りで近況を伝え、家族からは「相談が気軽にできる」「安心して任せられる」との声があり、意見や要望が言い易い環境がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	弊社にて行っている職員アンケート、面談や会議での聞き取りを通して要望を聞く機会を設け、必要時にはできるだけ早くの反映を目指しています	管理者の明朗快活な性格もあり、職場環境は良好で、職員から「話し易い」との声が聞けた。定着率も良く、職員の意見、提案を実践に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入社1か月での新スタッフ研修、アンケートやストレスチェックを用い働きやすい環境を目指している、リーダー研修やOJT研修など研修参加を促すなどアプローチしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は毎月インターネットでの研修を行っている、介護福祉士試験の案内や実務者研修への声かけを行っています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	リーダー、管理者は研修などを通じ他事業所と交流や意見交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には情報をもとにスタッフで話し合いを行い、入居後も本人の不安・要望などを申し送りや会議で共有、初期にはできるだけ本人の落ち着ける環境での聞き取りを心がけています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様はこちらからの挨拶、近状をお伝え会話の中から要望を聞き出せるよう心がけられた要望などは職員と共有しできるだけ実践できるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント情報やご本人の様子、ご家族様からのお話から支援方法を考えご本人の想いを尊重しながら今必要な支援を決めていくよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	配食で直接触れず安全に参加できる機会が増えた、また日常生活をご自身で行える様、掃除機掛け、シーツ交換などその人の行えることに応じてサポートを行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の希望時には受診同行体調変化などあった際には連絡し支援の方向性など含め相談している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に入居間もない時期には入居で関係が途切れてしまわないように配慮、要望があった際には住んでいた場所を見に行くなどし、入居前の繋がりを重視しています。	友人が「栗ご飯」を持って訪ねて来たり、宗教新聞を持って訪ねて来ており、顔が見える機会を大切にしている。新聞の購読やレース編みなど、趣味、習慣にも配慮している。懐かしい自宅に出掛けることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わり合いのヒントになる行動・言動を日誌に記録し、コミュニケーションが難しかったりトラブル時には良い・悪いと決めつけず間に入るよう努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状態変化などでGHが難しくなってしまった場合にもご本人様・ご家族様の意向や相談に寄り添い、支援やフォローを行うよう努めています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望がある際に対応できるようにしている、実現できない場合には代替案を検討するなどし、できる限り希望や意向を尊重した支援を心がけています	1対1になる入浴などの機会に、思いや意向を聞き取り、把握した情報はユニット会議で共有して実現につなげている。職員と利用者が毎日手紙の交換をしており、思いに添う支援が続けられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報やご家族様からの聞き取り入居後は生活のリズム、大切にしていることや好みなど会話の中から引き出せるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	住人様個々の生活パターンを把握し、日々の食事量や排せつ・入浴などの支援時に心身の状態や動きの確認を行い変化に気づけるよう努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画の見直し時には、ご家族様への意向や主治医・STなど専門職の意見を取り入れながらユニット会議で支援の方向について話し合いチームで方向性を決定している	今年度から介護計画書・介護日誌の様式を変更し、目標の期限が分かりやすくなった。利用者・家族から聞き取った思いが反映された介護計画で、毎月モニタリングを行って6ヶ月毎に見直しをしている。	長期目標は1人ひとりに合った目標を作成しているが、短期目標を具体的なものにし、利用者、家族、職員が共に達成する喜びが感じられる、介護計画の作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌や申し送りを読み返し、日々の変化の共有「最近どうか」についての会話を意識して行っている、日誌に短期の目標を入れ目標についての関りを意識できるよう取り組んでいます		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の同行希望や面会時の(人数・差し入れ)購入物などご家族様ごとで要望は様々なのでどうしたら行えるかを考えながら柔軟に対応できるよう努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コンビニや雑貨店、飲食店の利用住人様の個々の楽しみにあった商店街のイベント開催時には参加できるよう調整を行っています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診では職員からの聞き取り、ご本人への体調やその他のことでも今、気になっていることや相談事はないかの聞き取りを行い往診時に間に入るよう心がけている	協力医による月2回の訪問診療に加え、訪問歯科の支援もある。訪問看護師の健康管理と、緊急時24時間体制もある。かかりつけ医受診に管理者が同行し、普段の様子を伝えて適切な医療につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師の訪問で住人様の健康の状態を把握してもらっている訪問後は情報の共有を行っています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時住人様の情報をお伝えできるようにしている、ご家族様の要望時には入院中のフォロー、近状や様子の確認を行います退院前にはカンファレンスを行い情報の共有を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについてご本人・ご家族様に書面にて説明を行っている、看護師・主治医と連携をとりながら状況に応じ意向の確認を行いそれぞれの終末期を迎えていただくよう意識しています。	医療的ケアがない場合、利用者・家族の意向に沿って、ホームでの看取りも可能である。今年度2名の看取り事例がある。経口摂取ができなくなった時などを目安に、家族、医師などと話し合い、方針を決め共有して取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成しているマニュアルに基づき対応できるようスタッフに周知している、緊急時のバイタルサイン状況を速やかに看護師へ伝えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春・秋に定期防災訓練を行っています 国籍が様々なのでポイントを分かりやすく伝え訓練を行うよう心がけている管理者は今季消防団へ入団、地域の自主防災訓練や広報活動に参加している	ビル全体の合同防災訓練を年2回(夜間想定を含む)実施している。学区の自主防災訓練に利用者も参加している。管理者が消防団に入団して、毎月の訓練に参加しており、災害に対する意識は高い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排せつ・入浴支援時には特に慣れた支援にならないよう意識し、カーテンを閉める・訪問時のノックを心がけている	利用者の呼称はさん付けを基本とし、尊厳を傷つけないよう、トイレの誘導はさりげなく行っている。フロア内の申し送りにはイニシャルを使用するなど、個人名を出さないプライバシー保護の配慮がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉での会話が難しい場面では閉じた質問を投げかけ、うなずきなどで応えられるように住人様に合わせた自己決定できるように声かけや関りを心がけています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護計画書に基づき支援を行っている 住人様1人1人のペースに合わせて行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	金銭面で難しい場合でも(髪の毛を染めたい)短くしたい、長くしたいなど要望があった際にはボランティアさんに相談するなどしその人らしいおしゃれが継続できるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや細かくする、野菜のカット、調理が得意な方にはお味噌汁やおやつ作り片付けなど住人様と共に行っている	今年度から、食材は配食サービスを利用している。調理は職員が行い、利用者の力量や要望に合わせ、具材を切る、盛り付け、食器洗い、拭くなどの役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食の利用、食事量の記録食事量や体調の変化がある住人様は主治医に相談し、脱水や栄養摂取量に気をつけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床・就寝時やご本人のペースに合わせてご本人のできない部分に関して支援を行っています、必要時には訪問歯科・リハビリを利用される方もいらっしゃいます		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人に合った時間での声かけや支援を行っている、またパット、リハパンについて適宜お肌の様子や体調の状態に対してサイズや時間帯の見直しを行っています	定時誘導や一人ひとりに合わせた、タイミング良い誘導を行い、トイレで排泄できる支援をしている。夜間転倒の危険がある利用者は、ポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の乱用にならないようにその人にあった方法を探ります、また乳製品や食物繊維、水分などを食事の際に取り入れるよう意識している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の体調や状態、今日の気持ちなどを見ながら1人1人のタイミングに合わせて入浴できるよう支援している、週3回だが無理いではなく継続した清潔の保持を意識しています	週3回の入浴機会を基本とし、入浴を拒否する利用者には無理強いせず、時間や人を代えるなど、その時の気分に合わせて誘導している。柚子湯や菖蒲湯など、季節を楽しんで入浴できるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間のTV音量、温度や湿度に気を配りまず、安眠できない時には日中散歩や体操の声かけを行うなど意識し関与します、日中や夜間の過ごし方はまず見守りその人らしさを尊重します		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全体往診でお薬の変更や追加があった際には往診連絡帳に記載し周知、経過を観察し様子に変化があった時には看護師・主治医に報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今期は作品展への出展、今期はバザーへの参加に繋げることができました直接お店に立ちお客さんとのやりとりをするなどご本人の趣味が楽しみに、それが継続できるよう支援を行っていきます		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り、止める支援ではなく感情に寄り添った支援を心がけています 今期はイベントも多く、人通りなど見ながら参加ができた	毎朝、商店街のラジオ体操に参加している。利用者の希望に合わせ、コンビニや買い物、散歩、ドライブ、劇を見に出掛けている。商店街行事のバザーでは呼び込みや販売を行うなど、地域と積極的に交流しており、利用者の楽しみとなっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設での金銭管理についてはご家族様や権利擁護の方と相談しながら行っている日用品や嗜好品などの買い物はご本人が選択し購入できるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	届け物が届いた際にはお電話で直接お話する機会をつくったり、書くことが好きな住人様へは便せんをお渡ししています、職員との手紙のやり取りも続いている方もいらっしゃいます		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気の時間帯への配慮、クレンジングを心がけ不快な刺激がないよう気をつけるカーテンの開け閉めや家具の配置などは住人様の意見をききながら行い居心地の良い空間となるよう意識しています	新型コロナウイルス感染症感染予防対策として、今年度は視察無し。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでの移動のイメージをしながら机やイステレビを配置し、食事など皆さんが集まる時間帯には住人様同士の相性などを留意しながら座っていただけるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みのものを入居にお持ちいただき入居後もご本人の趣味や作品、写真など好きなものを置くことでその方の生活空間が作れるよう心がけている	新型コロナウイルス感染症感染予防対策として、今年度は視察無し。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	住人様のそれぞれできること、わかることを把握し支援方法を探りながらできるだけすっきりわかりやすい表示などを心がけ、自立した生活を送っていただけるよう工夫している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370401230		
法人名	株式会社マザーズ		
事業所名	グループホーム円頓寺東館		
所在地	愛知県名古屋市西区那古野1-20-30		
自己評価作成日	令和4年11月23日	評価結果市町村受理日	令和5年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2370401230-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2370401230-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

企業理念である「人生楽しく自分らしく」をもとに住人様1人1人の想いに寄り添い、住人様とご家族様の想いを尊重した支援を心がけ、その人らしい・自分らしい暮らし方を医療と連携しながら支援していきます。

この数年間、コロナやその時々状況に戸惑いながらも今は継続することの大切さを感じています。特に学生の受け入れや実習などは形をかえやり方を変えながらどうしたら行えるか考え実践しました。今期は幼稚園、小学校、高校、大学生さんと幅広い世代の方との交流の機会を持つことができました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出かけた時間帯や要望を聞きながらお参りや散歩、買い物など自然な形で地域に出かけられる機会を支援しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアさんと曜日など調整しながら日課や地域との繋がりが継続できるように支援しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設をしない支援を継続しています 外出される住人様とのいろいろな関りを見ていただくことが住人様や職員を覚えていただくきっかけになっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議では身体的拘束や感染症など研修の取り組み報告、会議の目的の共有を行いました。 (状況報告・情報収集・評価)		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	東館では生活保護受給者の方が多いので保護課の方との関係性が築けている 入居前・後も状況をお伝えしながら困りごとなどある際には間に入っていただくことも多いです		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に1度の身体的拘束委員会への参加、ユニットごと毎月の会議で身体的拘束について話し合い、目標の振り返りを行っています		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	eラーニングの受講では虐待について必須項目とし全職員対象に行い虐待防止の徹底に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用されている方も多いです、職員の方が来設された時には住人様の様子をお伝えしたり、ご本人からの要望意向の確認などを行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	現状は会社の契約担当者が行っている利用者・ご家族様を交えて説明しご理解いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	できる限りご家族様との面会を行えるよう調整しながら直接お話する機会を設けています、定期的にアンケートを行い改善点などは会議で話し合っています		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	弊社にて行っている職員アンケート、面談や会議での聞き取りを通して要望を聞く機会を設け、必要時にはできるだけ早くの反映を目指しています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入社1か月での新スタッフ研修、アンケートやストレスチェックを用い働きやすい環境を目指している、リーダー研修やOJT研修など研修参加を促すなどアプローチしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は毎月インターネットでの研修を行っている、介護福祉士試験の案内や実務者研修への声かけを行っています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	リーダー、管理者は研修などを通じ他事業所と交流や意見交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には情報をもとにスタッフで話し合いを行い、入居後も本人の不安・要望などを申し送りや会議で共有、初期にはできるだけご本人の落ち着ける環境での聞き取りを心がけています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様はこちらからの挨拶、近状をお伝え会話の中から要望を聞き出せるよう心がけられた要望などは職員と共有しできるだけ実践できるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント情報やご本人の様子、ご家族様からのお話から支援方法を考えご本人の想いを尊重しながら今必要な支援を決めていくよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	配食で直接触れず安全に参加できる機会が増えた、また日常生活をご自身で行える様、掃除機掛け、シーツ交換などその人の行えることに応じてサポートを行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の希望時には受診同行体調変化などあった際には連絡し支援の方向性など含め相談している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に入居間もない時期には入居で関係が途切れてしまわないように配慮、要望があった際には住んでいた場所を見に行くなどし、入居前の繋がりを重視しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わり合いのヒントになる行動・言動を日誌に記録し、コミュニケーションが難しかったりトラブル時には良い・悪いと決めつけず間に入るよう努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状態変化などでGHが難しくなってしまった場合にもご本人様・ご家族様の意向や相談に寄り添い、支援やフォローを行うよう努めています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望がある際に対応できるようにしている、実現できない場合には代替案を検討するなどし、できる限り希望や意向を尊重した支援を心がけています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報やご家族様からの聞き取り入居後は生活のリズム、大切にしていることや好みなど会話の中から引き出せるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	住人様個々の生活パターンを把握し、日々の食事量や排せつ・入浴などの支援時に心身の状態や動きの確認を行い変化に気づけるよう努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画の見直し時には、ご家族様への意向や主治医・STなど専門職の意見を取り入れながらユニット会議で支援の方向について話し合いチームで方向性を決定している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌や申し送りを読み返し、日々の変化の共有「最近どうか」についての会話を意識して行っている、日誌に短期の目標を入れ目標についての関りを意識できるよう取り組んでいます		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の同行希望や面会時の(人数・差し入れ)購入物などご家族様ごとで要望は様々なのでどうしたら行えるかを考えながら柔軟に対応できるよう努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コンビニや雑貨店、飲食店の利用住人様の個々の楽しみにあった商店街のイベント開催時には参加できるよう調整を行っています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診では職員からの聞き取り、ご本人への体調やその他のことでも今、気になっていることや相談事はないかの聞き取りを行い往診時に間に入るよう心がけている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師の訪問で住人様の健康の状態を把握してもらっている訪問後は情報の共有を行っています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時住人様の情報をお伝えできるようにしている、ご家族様の要望時には入院中のフォロー、近状や様子の確認を行います退院前にはカンファレンスを行い情報の共有を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについてご本人・ご家族様に書面にて説明を行っている、看護師・主治医と連携をとりながら状況に応じ意向の確認を行いそれぞれの終末期を迎えていただくよう意識しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成しているマニュアルに基づき対応できるようスタッフに周知している、緊急時のバイタルサイン状況を速やかに看護師へ伝えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春・秋に定期防災訓練を行っています 国籍が様々なのでポイントを分かりやすく伝え訓練を行うよう心がけている管理者は今季消防団へ入団、地域の自主防災訓練や広報活動に参加している		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排せつ・入浴支援時には特に慣れた支援にならないよう意識し、カーテンを閉める・訪問時のノックを心がけている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉での会話が難しい場面では閉じた質問を投げかけ、うなずきなどで応えられるように住人様に合わせた自己決定できるように声かけや関りを心がけています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護計画書に基づき支援を行っている 住人様1人1人のペースに合わせて行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	金銭面で難しい場合でも(髪の毛を染めたい)短くしたい、長くしたいなど要望があった際にはボランティアさんに相談するなどしその人らしいおしゃれが継続できるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや細かくする、野菜のカット、調理が得意な方にはお味噌汁やおやつ作り片付けなど住人様と共に行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食の利用、食事量の記録食事量や体調の変化がある住人様は主治医に相談し、脱水や栄養摂取量に気をつけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床・就寝時やご本人のペースに合わせてご本人のできない部分に関して支援を行っています、必要時には訪問歯科・リハビリを利用される方もいらっしゃいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人に合った時間での声かけや支援を行っている、またパット、リハパンについて適宜お肌の様子や体調の状態に対してサイズや時間帯の見直しを行っています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の乱用にならないようにその人にあった方法を探ります、また乳製品や食物繊維、水分などを食事の際に取り入れるよう意識している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の体調や状態、今日の気持ちなどを見ながら1人1人のタイミングに合わせて入浴できるよう支援している、週3回だが無理じいではなく継続した清潔の保持を意識しています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間のTV音量、温度や湿度に気を配りまず、安眠できない時には日中散歩や体操の声かけを行うなど意識し関与します、日中や夜間の過ごし方はまず見守りその人らしさを尊重します		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全体往診でお薬の変更や追加があった際には往診連絡帳に記載し周知、経過を観察し様子に変化があった時には看護師・主治医に報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今期は作品展への出展、今期はバザーへの参加に繋げることができました直接お店に立ちお客さんとのやりとりをするなどご本人の趣味が楽しみに、それが継続できるよう支援を行っていきます		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り、止める支援ではなく感情に寄り添った支援を心がけています 今期はイベントも多く、人通りなど見ながら参加ができた		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設での金銭管理についてはご家族様や権利擁護の方と相談しながら行っている日用品や嗜好品などの買い物はご本人が選択し購入できるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	届け物が届いた際にはお電話で直接お話する機会をつくったり、書くことが好きな住人様へは便せんをお渡ししています、職員との手紙のやり取りも続いている方もいらっしゃいます		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気の時間帯への配慮、クレンジングを心がけ不快な刺激がないよう気をつけるカーテンの開け閉めや家具の配置などは住人様の意見をききながら行い居心地の良い空間となるよう意識しています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでの移動のイメージをしながら机やイステレビを配置し、食事など皆さんが集まる時間帯には住人様同士の相性などを留意しながら座っていただけるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みのものを入居にお持ちいただき入居後もご本人の趣味や作品、写真など好きなものを置くことでその方の生活空間が作れるよう心がけている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	住人様のそれぞれできること、わかることを把握し支援方法を探りながらできるだけすっきりわかりやすい表示などを心がけ、自立した生活を送っていただけるよう工夫している		